

# 令和6年度 学校評価報告書

学校番号( 中36 ) 長崎市立( 野母崎中 )学校

## 1 教育目標

自ら学び、心身ともにたくましく、人間性豊かな実践力のある児童生徒の育成  
 (教育理念) ~総がかりで、夢を抱き、志を育み、未来を拓く小中一貫教育~  
 (校訓) 進取(進んで)・調和(共に)・創造(創る)

## 2 学校経営方針

- (1) 「個を生かし、個が生きる」この一心で学校経営 (2) 願いを一つに揃えるため、教育活動の指針は校訓、到達すべきは学校教育目標  
 (3) 夢や理想を語り、その追求を続ける一人一人であることを目指す (4) R・V・P・D・C・Aのマネジメントサイクルによる学校経営  
 (5) 命の教育を根底においた基本的生活習慣の確立 (6) 子どもをど真ん中に据え、総がかりで支え、感動のある学校  
 (7) 信頼される学校 (8) 保護者・地域等と連携した学校(コミュニティースクール)  
 (9) 学力向上を図る学校(GIGAスクール構想の実現) (10) 特別支援教育の充実(個別最適な学び・協働的な学び)  
 (11) 働き方改革は意識改革(働きがいのある職場)

## 3 重点目標

- (基本的な考え方)「教育活動の指針は校訓、到達すべきは学校教育目標」「進取・調和・創造」  
 ○「創立10周年事業」計画の推進 ○学校・学級の行事は基本、保護者や地域へ公開 ○平和を創る人を育てる平和教育の充実  
 (1) 基本的な生活習慣の確立(あいさつ、はきものそろえ、「あ・は・は運動」の推進、体力の向上)  
 (2) わかる授業、個に応じた授業の展開(一人一台パソコンの有効活用、小中一貫教育を生かした授業改善)  
 (3) 保護者・地域との連携(コミュニティースクールの充実)  
 (4) 働き方改革による教育の質の向上  
 (ノー残業デーの小中統一、校務支援システムを活用した会議の短縮、児童生徒の成長・頑張りの共有)

## 4 自己評価

領域	項目	質問内容	アンケート結果			分析及び改善策
			(肯定的割合・%)			
			児童生徒	保護者	教職員	
学校経営	教育目標	教育目標を達成している	92	77	100	教員は経営方針や重点目標を意識し責任を持って業務遂行をしている。職員の業務改善については教員間の職務偏重を感じる部分がある。校務分掌分担や連絡システムの在り方を工夫する必要がある。
	学校の雰囲気	明るく楽しい雰囲気である	77	85	100	
	組織運営	校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している			58	
	業務の改善	校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している			58	
心の教育	生活・生徒指導	ルールやマナーを身に付けている	92	73	83	小中一貫校として、中学校でも昨年度から「あはは運動」の認知度について回答を得ている。今年度は人権・平和教育が充実し、学習の過程や成果が生徒や保護者に周知できた。一方でいじめ防止や特別支援教育において教員が丁寧に対応しているがなかなか生徒や保護者へ伝わっていない現状がわかった。わかりやすい情報発信やこまめな連絡を重ね、理解を得よう継続していく。また生活アンケートや日々の観察から教育相談の機会を充実させ、保護者面談を必要に応じて行うなど丁寧な対応を継続して生徒や保護者の理解を深める。
		挨拶をよくしている	92	79	75	
		「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ)	74	87	82	
		教職員は悩みや相談に親身に対応している	83	67	92	
	いじめ防止対策	学校はいじめ防止のための対策をとっている	77	61	100	
	人権教育	生命や人権を尊重しようとする心が育っている	94	85	92	
	平和教育	平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている	96	82	100	
	特別支援教育	学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている	79	64	92	
確かな学力	特色ある学校づくり	伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている	92	91	92	全学年で毎日の家庭学習の取組を指導・継続しているが依然として課題である。学習内容や必要感を自己分析し、生徒の能動的な取組になるような働きかけが必要である。ふるさとへの誇りや愛情は総合学習を通して高まっている。
	学習指導・教育課程	わかりやすい授業を行っている	81	58	100	
		家庭学習の習慣が身に付いている	67	52	50	
	キャリア教育	将来の自立に向けて適切に指導している	81	64	92	
長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである		85				

健やかな体	保 健 ・ 衛 生	衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている	94	82	100	多くの生徒が、週2回の早朝ランニングに自主的に参加しており、体育の授業や行事等で体力向上に積極的に取り組んでいる。一方、家庭でSNSやゲームなどに費やす時間が増え、生活リズムの乱れが結果に現れている。食育は担当者以外の活動の有無に起因している結果であり、充実した取組はなされている。
	体 力 向 上	早寝・早起き・朝ごはん(基本的な生活習慣)が身に付いている	64	88	92	
		体力向上に努めている	72	60	83	
	食 育	食に関する教育活動を行っている	79	85	75	
信頼される学校	安 全 管 理	児童生徒の安全に気を配っている	94	88	100	学校の様子は学級通信や進路通信を定期的に発行しており、必要に応じてメール配信による情報発信は行っている。継続しながら内容の充実や方法について工夫する。校内研修では、ICTをはじめとして職員のニーズに応じた研修や、一人一回研究授業を実践し充実していた。
	情 報 提 供	学校の状況は通信やHP等で知ることができる	81	64	100	
	P T A ・ 地 域 と の 連 携	学校はPTAや地域との連携がとれている	81	85	100	
	職 員 資 質 向 上	研修が充実し、資質が向上している			83	
教育環境	環 境 整 備	教育環境が充実し、整備されている	87	85	92	施設は充実しており、恵まれた環境で学習活動に取り組むことができている。職場環境について密な情報交換や声掛けを行いながら風通しのよい雰囲気づくりを行う。
	職 場 環 境	学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる			67	

## 5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

### <成果>

○小中一貫校として、9年間の見通しや小中連携を意識しながら一人一人の生徒に全職員で丁寧に対応できている。  
○総合的な学習の時間に「のもぎき学」として、学年の発達段階に応じたふるさと学習を継続・実践していることで、地域を大切にす気持ち向上している。また人権・平和学習が系統的に実践されており、学年別の内容と学年の枠を超えた学習ができ、生徒自身の主体的な学習活動へと昇華できた。

### <課題>

●校務の効率化や業務の改善については、偏りがないかを見直したり、個人的な意識改革をしたりする必要がある。連絡システムの在りかたや情報共有が適切に行われることで業務の効率化につなげ、職場環境や業務の改善を図る。  
●ゲームやSNSの長時間利用が、家庭学習や就寝時間に影響し、基本的な生活習慣の乱れに繋がっている。  
●家庭学習については依然として職員・保護者の評価は厳しい。家庭学習の内容や方法について校内研修でも取り上げ、効果的な方法を教員全体で研究していくことで改善を図る。またわかりやすい授業に対する保護者の評価が低く、授業の内容が十分理解できていない生徒がいることがわかる。わかる授業を意識して授業改善に取り組み、個別最適化学習や補充学習をさらに充実させる必要がある。

## 6 学校関係者評価

学校運営協議会における意見より

- ・家庭学習の定着がなかなか進まない印象を受ける。
- ・教職員による宿題のまる付けの精度をある程度統一できないか。
- ・地域行事への中学校生徒の参加が少ない。部活動の対外試合等で親子そろって忙しいことは分かるが、地域行事の存続が危ぶまれているので参加してほしいところである。
- ・学校行事に地域から参加できる要素があってもいい。
- ・学校からの情報を、地域へ提供する機会が増えるとよい。
- ・職場環境について小中教職員の感じ方に違いがあるのは、どのような原因からか分析が必要。

## 7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

- ・家庭学習については基本的に家庭が受けつものだが、学習方法について手引きを作成し意識づけする、通信などで協力を要請するなど一層の啓発が必要である。
- ・宿題のまる付けは教職員間で共通理解を図りながら指導につなげる。
- ・地域行事について児童生徒への広報は折にふれて行っている。保護者連絡ツールなども活用し、呼びかけを強められるとよい。
- ・地域を巻き込んだ学校行事のあり方を模索していく。
- ・学校からの情報はHPをとおして広報しているが、適宜紙媒体で各自治会に回覧していただくことを検討する。
- ・一貫校の特性を生かし、小中の関係職員で情報共有することで双方の職場環境の改善に努める。